

取組名	県立高校指定事業 教育課程研究開発校（新たな学習評価に係る研究） 令和2年度 教育活動の公開		
実施時期	令和3年1月14日	対象	教職員研修（内外）
<p>【研究主題】</p> <p>「学習効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを踏まえた 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習評価の改善（3カ年）」</p> <p>【今年度研究テーマ】</p> <p>「学習活動の質を高めるための評価（Assessment）を踏まえた単元計画の作成」</p> <p>（内容と工夫点）</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大及び緊急事態宣言の発令を受け、今年度公開方法を「GoogleMeet」によるリモート公開とした。</p> <p>Chromebook を用い、GoogleMeet にて授業を撮影・配信を行った。</p> <p>学習指導案やワークシート、研究協議に用いたスライドについては、「教育活動の公開特設サイト」を開設し、事前に情報提供を行った。</p> <p>各授業に指導主事を招き、指導・助言を受けた。</p> <div data-bbox="108 904 296 1093" style="text-align: center;">  </div> <p>←特設サイト URL（県立高校教職員のみ閲覧可能）</p> <p>【リモート公開に関する課題】</p> <p>授業自体に Chromebook を活用したり、生徒私物のスマートフォンを利用する BYOD を行うことで、通信環境が悪化する状況が見られ、同時に GoogleMeet による視聴は途切れや音声の聞き取りづらさなどが見られた。</p> <p>今後、Chromebook は順次配置され、増加していくことで、より一層授業での活用が見込まれる。対応としてはアクセスポイントの増設が必要である。</p> <p>【成果】</p> <p>研究協議においては研究主題、研究テーマを受けて今年度までに各教科で行ってきた研究内容について発表を行った。本校教職員全体が生徒の資質・能力の育成・伸長をするために組織的に取り組んでいる姿が見られた。</p> <p>【講演について】</p> <p>横浜国立大学教育学部附属横浜中学校校長の松原 雅俊先生を招き「教育課程全体を通して教科等横断的に育成を目指す資質・能力を踏まえた学習指導・学習評価の改善に向けたカリキュラム・マネジメント」と題し、講演をいただいた。</p> <p>○学校教育に社会的に求められていること ○資質・能力の育成について ○横浜国立大学教育学部附属横浜中学校の取り組みと光陵高校との連携について ○学習評価について 等</p> <p>多面的な内容であり、学習評価を行うことは単純に成績をつけるということではなく、社会に求められる人材となるための生徒の資質・能力の育成のためであることを強く協調された。本校との研究テーマと深く重なる部分があるとともに、附属横浜中学校と光陵高校との資質・能力ベースでの連携がより図られることで、豊かな人材育成ができることを確信した。</p>			

	(1) 各教科の研究内容について	(2) 本時の授業について	(3) 指導主事より指導・助言	(4) その他
国語	<p>言語による見方・考え方を働かせ、言語理解を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。</p>	<p>『小倉百人一首』を「読む」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌の修辞法を理解し、読解につなげると同時に歌人の思考過程を疑似体験する。 ・声に出して「詠む」だけではなく、分析的に「読む」ことを目標とする。 ・ICTを用い、生徒の積極的な参加を促し、論点の共有化を図ると同時に自ら学ぼうとする意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導目標に対し、実際の言語活用がリンクしている。 ・教員間で、指導目標が共有化されつつ、個々の教員による個別の指導がなされていた。 ・生徒自らの「気づき」を、さらに促すような指導へと向上していくのを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古文を身近に感じられるように教材が工夫され、それに基づいて、次第に深い理解に導くように配慮された授業展開であった。 ・教科全体で情報の共有化がなされ、一丸となって、教科目標の実現に向かって取り組んでいる。

<p>数学</p>	<p>○数学科で育成したい資質・能力と実現したい生徒の学ぶ姿について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする姿 ・日常生活や社会の事象を数理的に捉え数学的に表現・処理し、問題を解決する姿 <p>○今年度のテーマ「学習活動の質を高めるための評価(Assessment)を踏まえた単元計画の作成」について</p> <p>単元計画における工夫点</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学習を見通し、振り返る場面の設定 (2) 数理的にモデル化し、課題解決する場面の設定 (3) 言語活動の充実 	<p>○学習を見通し、振り返る場面の設定</p> <p>単元1時限目で本時の内容につながる様な課題を実施し、今後の学習の見通しを持たせた。</p> <p>○言語活動の充実</p> <p>グループで1つの課題に取り組むことで、表現力・思考力の育成を図ることがポイント。</p> <p>本時では生徒の様子からも新たな気付きや疑問をもつことができたのではないかな。</p> <p>○具体的な事象を図形的に捉える</p> <p>三角比を身近に感じ、日常に数学を取り入れる面白さを感じてもらい、学びに向かう力を高めるところがポイント。</p> <p>生徒から回収したワークシートから「今後、何の面積を求めることができるか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京ドームや都道府県、大陸(直線で囲まれていると仮定して)を求めてみたい。 ・新たな疑問として、「曲線で囲まれた面積はどのように求めるのだろうか？」 <p>○学習の質を高めるための評価</p> <p>課題において1人1人の理解度を把握し、コメントをつけて返却している。</p> <p>生徒は「自分で何ができるようになって何が分かったのか。」を感じることができる。</p> <p>これまでの学習してきた内容の意味や価値を感じることができたのではないかな。</p> <p>○質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の反応は予想通りだったか？ <p>→予想通り班で協力して取り組む様子が見られたのではないかな。</p>	<p>○光陵高校の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の最初と最後に同じ課題を設定することで、自分が何ができるようになったかが実感できるような取り組み。 ・数学では理想化して問題を解いていくことが令和4年度の新学習指導要領でも大事になっている。 <p>生徒にとってリアリティーがある課題から数学の問題に落とし込み、生徒に考えさせる取り組み。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条件を最初から仮定するのではなく、そこを生徒に考えさせる取り組み。 <p>学校でこのような取り組みをしているのは素晴らしく、他校でも参考になるポイントであったと感じる。</p> <p>○本時の授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の最初から生徒にある程度本時の課題に対して見通しがもてるような計画がなされていた。 ・日常の中に潜む数学を題材にしていたのがよかった。 ・最初に予想を立てさせたり、何の公式を使えばよいか、前で生徒に説明させたりする活動など先に教師側が話してしまうようなことを生徒に取り組みせていたことがよかった。 ・小学校6年の「多角形の面積を三角形に分割して求める。」と本時の内容として違いは「多角形の面積を角度と辺の長さに着目して求める。」ところにあると思うが、このことを生徒が気付けるような授業の構成になっているとさらに良かったのではないかな。 ・この情報があれば問題は解けるというような情報が用意されていたが、「角度に着目すれば解ける。」と生徒に気づかせることができれば、「三角比を用いて面積 	<p>○オンラインで参加された先生の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板の字や生徒の手元はよく見えなかったが、授業の全体の流れは把握することができた。
-----------	---	--	---	---

			<p>を求める。」という今回の目標に近づけたのではないか。また、そのことを教師から話すのではなく、どれだけ課題に落とし込めるかでさらに良い活動になったのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none">・やや計算が繁雑で時間がとられてしまったのは残念だった。・リアリティーがある課題、実際だったらどうなるかを考えられる生徒は多いが、考えられない生徒にはどのようにアプローチしていくか。 <p>○学習評価について</p> <ul style="list-style-type: none">・課題3で生徒にこんなことが書けていればいいなというのは何か？ <p>→感想に近い形で終わらないように、身についた資質能力に絡めて何ができるようになったか、活用できたかの具体的に挙げられるとよかったのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none">・高校で学んだことが今後どのような場面で活用できるかが大事になってくるので、リアリティーのある課題を今後も意識していただければと思う。	
--	--	--	---	--

<p>理科</p>	<p>理科においては、どの科目も共通して、定理や定義はきちんと教える。</p> <p>技能は身につける。自らの学びはその先にある。</p> <p>という考えがベース。</p> <p>事例を3点紹介</p> <p>各科目の取り組み①「物理」</p> <p>入試問題解説</p> <p>事例紹介…</p> <p>金沢大学の入試過去問題について生徒が自ら解説を作成する。どういうふうを考えるか。人に説明する、という視点で、考えを整理できる。</p> <p>各科目の取り組み②「化学」</p> <p>毎時の振り返りシート</p> <p>youtubeを用いた動画学習</p> <p>各科目の取り組み③「生物基礎」</p> <p>身の回りの生物レポート</p> <p>授業内容、その先の興味につながる学び</p>	<p>目指すべき生徒の姿を第一に考えた。</p> <p>様々な進路を目指しているが…すべての生徒に必要なのは課題を探究する力</p> <p>その力の育成につなげるための、パフォーマンス課題→未知の化合物を同定する</p> <p>実験をすることよりも、実験の手立てを考えることを優先した。→カードを活用した考察活動。</p> <p>工夫した点は、言語活動の充実を重視した点。</p> <p>発表やそれに対する批判も含めて、重視した。</p> <p>合わせて、振り返りの内容のポイントを、明確にした。(本時以外でも行っている活動。)</p>	<p>実験が伴わなくても、実験のようなことをされた、という点において、新しい試みだった。ひとつのモデルケースになる。実験をする際のヒントになる。</p> <p>最初に学習目標を提示したことがよかった。ステップが5つあったうちのステップ5に期待していたが、時間がなくて残念だった。</p> <p>評価についての提案…ステップ2および3において</p> <p>早く終わってしまった生徒が、「教えあい」をすることを促すような評価項目を設定することで、「対話的な学び」を生み出すこともできる。</p> <p>過程に対する評価を加えることで、可能になる→生徒同士の相互評価でよい。</p> <p>最後に成果物の画面共有ができなかったことは残念だった。</p> <p>生徒の様子を観察するとステップ3の書き方に、様々な表現があり、共有する価値がある成果物が多かった。言語活動も大切だが、情報の整理の多様化を評価するようなチャンス、紹介するチャンスを設けることが有意義である。言語活動とは違った表現についても含まれる「人とはちがうまとめかた」への評価と、生徒間の共有、についても取り入れると効果的である。</p> <p>先生と生徒のやり取りだけだと視点が固定化されるが、生徒たちと共有すると、視点が増えて広がる。生徒の持っている資質能力を広げる。</p> <p>カードに書かれていた情報について</p> <p>1 実験方法</p> <p>2 目的</p>	<p>できている生徒とできていない生徒がいて、教えあえて相互評価することについて→どういうふうにやったらいいのか。</p> <p>仕掛けはどうしたらいいのか。</p> <p>A) 振り返りをする場面に、そういう枠を設ける。履歴を残す。チェックができるように。大々的に、それありきで行うわけではない。リフレクションカードに書かせていたこと。先生から OR 生徒から、どちらから教えて持ったほうが残りますか→6割以上の生徒が「生徒から」。</p> <p>生徒同士の話し合いは、教員が教える時間を削ってでも作るべきだと感じる。「問い」をしっかり立てた上で、話し合い活動をさせることが重要。こちらが仕掛ける題材によって、それを設ける価値が変わる。</p> <p>「問い」が一番難しい。</p> <p>「問い」が投げかけられないと、ただのおしゃべりになってしまう。</p> <p>狙いに対するどんぴしゃな題材→「問い」</p> <p>「問い」をたてることはプリントを作るより難しい。</p>
-----------	---	--	--	--

			<p>3 明らかになること →これを削ってもできたのでは？</p> <p>過剰な情報だったかもしれない。最初にある程度知識を入れた状況で生徒たちに考えさせる、という目標であれば→→知識の再確認をするチャンスが設定できた。→わかる・わからないをメタ認知するチャンス。→もっと会話を増やす。チャレンジしてみると、生徒はきっとできるのでレベルがあがる。好奇心も生み出すことができるので、アプローチを工夫しましょう。ぜひ実践を。その結果を教えてください。</p>	<p>生徒が教える、教員が教える？</p> <p>教員が教えていることは正しいだろう、という先入観が生徒にはあると感じる。教員が教えていることも間違っている、と、疑え、と伝えている。</p> <p>だから生徒同士の話し合いのほうが実るのでは？だから教え合いは大事だと感じる。</p> <p>今日の授業について、最後の発表への総括は、まとめたのほうがいいのでは？</p> <p>A) 総括ですら生徒にやってもらうことができても、またよかったです。しかし先生からの発表者に対する丁寧な講評は、発表した生徒にとっては嬉しかったと思う。</p> <p>知識が多い科目は生徒の教え合いに対して不安がある。教えあいは生物に活かされる自信はない。</p> <p>実験やらない実験、おもしろかった。物理でもできるかもしれない。物理の実験は面白くないものが多い。実験やってもデータは誤差だら</p>
--	--	--	---	--

				<p>け。誤差の理由を考 えることは面白い。 有意義。 教員が言う言葉は 「なるほど」って思 ってほしい。その思 い、ヒエラルキーが 生徒を思考停止にさ せていたのか…とい う気づき。</p>
<p>地 歴 ・ 公 民</p>	<p>「自ら課題を発見し、主体的 に解決する力」を身に付けさ せるための工夫として、地 歴・公民科全体での取り組み として、振り返りの記入を実 施している。振り返りをさせ るために、本時の問い・単元 ごとの問いの提示や、KP 法に よる授業の流れの可視化、ク ラス内での振り返りの共有を 広く行っている。 振り返りの記入に関して、上 手く取り組めない生徒に対す る指導の仕方として、書き方 の方向付けを行っていく方法 があることを共有した。</p>	<p>問いの立て方を、「南北戦争の 後、アメリカがどうなったの か」といった、授業内での用語 を組み合わせれば書けるもの に留めず、「南北戦争の意義と は？」とすることで、生徒が自 分自身の考えを入れて書く必 要があるような工夫を行った。</p>	<p>欠席</p>	

<p>外国語</p>	<p>・1年生の取り組み 評価について 単元（内容理解→表現活動：自己表現力の育成→まとめの活動） ※OREO 評価について（ルーブリック） GE/LE</p> <p>・2年生の取り組み 単元計画（内容理解→表現活動：自己表現力の育成→まとめの活動） 批判的思考 →紙上ディベートを複数回 「教科書の内容に基づいて」表現活動、まとめの活動。 評価については1学年のときからルーブリックを使用。 GE/LE</p>	<p>問いの立て方を、「南北戦争の後、アメリカがどうなったのか」といった、授業内での用語を組み合わせれば書けるものに留めず、「南北戦争の意義とは？」とすることで、生徒が自分自身の考えを入れて書く必要があるような工夫を行った。</p>	<p>・実際の文脈の中で新出語句や文法を活用してはどうか Critical Thinking の 逆 は Academic Writing 「批判的な思考力」には「論理的に表現する知識」が必要 客観的な正しさを伝える表現に注目。 ” many” はどれくらい？ “everyone” は（8割、6割という表現）という表現 ” sometimes” はどれくらい ・相手に納得させるためには「論理的に正しく」1つ1つ伝える ・リファレンス（～によれば） ・アカデミックライティングの要素 「情報的に正しいグラフを示して、相手を説得しようとする」など ・主体的に取り組む態度 「積極的に」「主体的に」 自律的な学習者 授業外（実生活）の中で英語を身につける学習者を育成する 授業外での準備 自分の脳が疲れる、負荷がかかる場面はどこだろうか？ →準備してきたものを相手に伝える 教科間の連携を取り、計画的に授業外で行う課題を求める ・思考・判断・表現 「伝える」→「伝え合う」 両方向のコミュニケーション どのように学ぶか、教師は facilitator 生徒が何ができるようになったか実感する←authentic な場面 ・with コロナ 「今やらなくてはならないことだろうか？」 読むこともコミュニケーション（筆者との対話）</p>	<p>・他校参加者よりコメント PPT スライドが見やすかった 授業内で教材として使ったチラシが工夫されていて良かった</p>
------------	--	--	--	---

			<p>かんたんな文章 (Twitter 等) を見せて、どう思うかなど</p> <p>話すのは難しいので、メッセージをやり取りする。それを教えるチャンス</p> <p>テキストならではの文体</p> <p>ぜひ教員間でアイデアを共有しながら実践を</p>	
--	--	--	---	--

<p>家庭</p>	<p>・知識及び技能・思考力、判断力、表現力等・学びに向かう力、人間力等の3観点</p> <p>・実現したい生徒の学ぶ姿・「しあわせのつきゅう」・「バタフライエフェクト」・「地球規模で考え、地域で実行する！」</p> <p>Think globality,Act locality！」</p> <p>○【振り返り】「メタ認知」をしてほしい→「自己評価」の必要性→生徒に自分の生活の中で必要なことを考えさせ、最初の授業で目標を設定させてから単元の学習に入った</p> <p>→学習後にどのような変化・気付きがあったのか→「R80+」の記述</p> <p>○【ポートフォリオ】生徒の考えと教師の狙いのずれを埋める</p> <p>○【ループリック】主にパフォーマンス課題に取り組ませる際、予め生徒に教師側の狙いを示し、学習に向かう目標を明確化する</p> <p>○【主体的に学習に取り組む態度の記録に残す評価（R80+の活用）】「単元を貫く問い」を設定し、単元における学習活動を通して、何を学び、何を考えたかを論理的に表現させる取り組み</p> <p>成果 生徒による授業評価からこれらの取り組みについて肯定的な意見が多い反面、時間に追われていることもあり、単元の最初に立てた目標を毎時間確認する時間が欲しいという意見もあった。</p>	<p>・前半部分は知識を生徒に伝達→少し喋り過ぎた</p> <p>・残り15分でパフォーマンス課題→ループリックを示し評価につなげるようにした</p> <p>・チラシ作成は初めて取り組む</p>	<p>・法律や制度を扱う単元なので難しい→喋りすぎたと授業者は言っていたが、必要な知識伝達の時間だった→時事問題や生徒が興味を持ちそうな話題を振っていて良かった→ex.PL法 みんな言葉は知っているが実際どうかと言われたら出てこない それを身の回りにある物から探させていてとても身近に感じられていて良かった</p> <p>・生徒はスマホやChromebookに集中するだけではなく、周りの人とコミュニケーションを取りながら活動ができていた</p> <p>・学習指導案 生徒に単元の目標を立てさせる→カリキュラムマネジメントとして良かった</p> <p>・生徒に振り返りを毎時書かせて、コメントを返すことで生徒の新たな気づきにつながって良い</p> <p>・テストのための勉強という感じではなかった 生活に結びついた知識の習得になっていた</p>	<p>【質問より】</p> <p>・毎回「R80+」をチェックするのは大変では？→今までは毎回書かせていたが、最近は単元ごとに書かせるようにして負担は軽減された</p> <p>・単元の目標設定、どうやってするか？→事前にスライドを作成し、単元のおおまかな流れを説明してからやると手応えはあった</p>
-----------	--	---	--	--